

修士論文（要旨）

2022年1月

中国の高齢者における継続就業に関連する要因

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

220J6015

韋 明君

Master's Thesis(Abstract)
January 2022

Correlates of willingness to continue working in Chinese older adults

WEI MINGJUN
220J6015
Master's Program in Gerontology
Graduate School of Gerontology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目 次

第1章 既往研究に基づく基本モデルの構築	4
1.1 日本で有意な影響をもつ規定要因	4
1.2 中国で有意な影響をもつ規定要因	4
1.3 基礎モデル	4
第2章 中国の事情を加味したリサーチクエスチョン	5
2.1 問題関心	5
2.2 中国における就業継続に影響する要因を考える際に考慮すべきこと	5
2.2.1 中国における就業率と就業時間の長さ	5
2.2.2 定年制度の影響	6
2.2.3 住宅所有の影響	6
2.2.4 家族構成の影響	6
2.3 リサーチクエスチョン	8
第3章 研究方法	10
3.1 分析データ	10
3.2 分析項目	10
3.3 分析方法	11
第4章 分析結果	12
4.1 分析対象者の特性	12
4.2 就業継続に関連する要因	13
第5章 考察	14
引用文献	I

第1章 研究の背景と研究目的

世界的な人口の高齢化に対応するため、高齢者に関する諸問題はこれまで老年学によって探究されてきた。経済学の分野では、高齢者の就業継続が経済成長に貢献することが、Lucas(1988)などによって検証されている。そのため、定年延長や退職後の再雇用などによって高齢者の就業継続をいかに達成するかが研究的でも政策的にも重要性が増している。

中国は高齢化社会から超高齢化社会に移行しつつあり、高齢者雇用を取り巻く環境も加速度的に変化している。しかし、高齢者の就業機会の確保や就業継続の制度は十分に整備されていない。こうした背景の下で、中国の高齢者の就業継続の要因を明らかにすることは重要でかつ緊急性が高いと考えられる。

本研究の目的は、既往研究を踏まえて構築した分析モデルに基づき、最新のデータを用いて高齢者就業の継続要因を解明することである。

第2章 研究方法

2.1 分析モデルの構築

高齢者の就業継続の有無がどのような要因によって影響されるのかを検証するために、まずは、既往研究で明らかになっている知見に基づき基礎モデルを構築した。次いで、中国の高齢者施策、高齢者の特徴・背景を考慮し、基礎モデルを発展させたリサーチクエスチョンを設定した。リサーチクエスチョンは、①デモグラフィックス要因、②経済的要因、③家族要因、④健康要因という4要因で構成した。

2.2 分析データ

2018年の中国健康と養老追跡調査のデータを用いた。この調査は、2011年から2012年に分けて、北京大学によって実施され、45歳以上の中国国民を対象とした追跡調査である。その後、2、3年ごとに1回の追跡調査が実施されている。データの二次分析については、「北京大学社会科学調査中心」に申請し承認を得た。

2.2 分析項目

①のデモグラフィックス要因は性と年齢、②経済的要因は持家の有無、借金の有無、年金の受給の有無、③家族要因は孫の世話、家族員数、老後の介護を頼める人の有無、④健康要因は主観的な健康指標を用いて測定した。

2.3 統計解析

ロジスティック回帰分析を用いて、従属変数に就業継続の有無、独立変数にデモグラフィックス要因、経済的要因、家庭要因、健康状態を投入し分析を行った。

第3章 結果

性別と年齢というデモグラフィック要因はいずれも就業継続に有意な影響がなかった。経済的要因については、年金の受給者と借金がある人では就業継続が有意に低かった。家庭要因については、老後の介護を頼める人がいると就業継続が有意に低かった。健康状態については、健康状態が良好な人で就業継続が有意に高かった。

第4章 考察

デモグラフィックス要因に関しては、日本では「中高年者縦断調査」などのデータを解析する中で、高齢者の就業継続に対しては年齢などのデモグラフィックス要因の影響が大きいことが示されている。しかし、本研究では、年齢は就業継続に有意な影響をもっていなかった。他方、健康要因については、濱秋・野口（2010）の分析結果と共通して、高齢者の就業継続に有意な影響が見られた。以上の結果から、中国においては、一定の年齢の範囲以内であるならば、かなりの高齢になっても加齢が健康状態に悪影響を及ぼし、結果として就業継続が妨げられる可能性が低いことが示唆されている。

中国の既往研究では、高齢者の就業継続の主要な動機は報酬の高さではなく生活の充実や仕事の生きがいであると指摘されている（王ら, 2019; 陸・童, 2020）。しかし、本研究では、年金を受給していること、老後の介護を頼める人がいることが就業継続を有意に低下させるという結果が得られた。安藤（2017）などによる日本の研究と共通して、高齢者の就業継続には、年金がなければ生活費を稼ぐために仕事をしなければならないという経済的な理由が強く作用していることが示唆されている。すなわち、経済的に安定した老後生活を送る態勢にない高齢者では、生活の充実や仕事の生きがいで就業継続ではなく、経済的に安定した老後生活を求めて就業継続を選択している可能性が示唆されている。

本研究の結果から、中国の労働力不足の問題を改善するためには、高齢者に対する年金給付を抑制し、経済的に働かざるをえない状況を作り出すことが有効な施策であるということになる。しかし、そのことによる就業の延長は、過酷な労働環境にあっても無理をして高齢者が就業することを意味しており、就業が高齢者の健康や生きがいにとってマイナスの影響を及ぼしかねない。年金を抑制し、高齢者の就業を促すことを追求する場合には、高齢者に適した労働環境の整備が不可欠である。

第5章 終章

本研究では、高齢者の就業継続意欲に関する規定要因について二次分析のデータを用いて分析した。本研究では、労働経済学の視点だけではなく、中国の国情と中国高齢者の特

徴も踏まえて、デモグラフィックス要因、経済要因、家庭要因、健康要因という4つの側面から中国人高齢者の就業継続に関する諸要因の分析モデルを構築した。

引用文献

日本語文献

- 山田篤裕. (2009). 高齢者就業率の規定要因. 日本労働研究雑誌、(589)、4-19.
- 福島さやか. (2007). 高齢者の就労に対する意欲分析. 日本労働研究雑誌、558、19-31.
- 孫亜文. (2019). 働きがいは定年後の就業継続に影響を与えるのか、Works Discussion Paper 29、1-14.
- 永野仁. (2018). 高齢者の就業希望の分析-働き続けたい年齢についての調査結果を用いて. 政経論叢、86(5)、57-77.
- 後山恵理子. (2007). 高齢者就労の特徴と課題: 文献研究. 東海学院大学紀要、1、31-45.
- 濱秋純哉、 & 野口晴子. (2010). 中高齢者の健康状態と労働参加. 日本労働研究雑誌、601、5-24.
- 樋口美雄, 黒澤昌子, 酒井正, 佐藤一磨, & 武石恵美子. (2006). 介護が高齢者の就業・退職決定に及ぼす影響. RIETI Discussion Paper Series06-J-036、1-30.
- 前田悦子. (2019). 高齢者の就業と年金制度. 駿河台経済論集、28(2)、165-178.
- 三浦宜彦. (2017). 高齢者の働き方と社会的活動. 日本健康教育学会誌、25(4)、247-248.
- 岩田克彦. (2017). 年金の就労インセンティブと高齢者の雇用就業、所得保障との総合方策の探求. 日本年金学会誌、35、4-11.
- 明石留美子. (2021). 高齢期の就労: 仕事の質と高齢者の雇用可能性を OECD のデータから考える. 研究所年報、51、21-29.
- 川口大司、神林龍、金榮慤、権赫旭、清水谷諭、深尾京司、牧野達治、&横山泉. (2007). 年功賃金は生産性と乖離しているか--工業統計調査・賃金構造基本調査個票データによる実証分析. 経済研究 58(1)、61-90.
- 吉沢康代. (2021). ワークモチベーション低下要因の移り変わり-A社50代前半社員に対するヒアリング調査からの一考-. 香川大学経済論叢、93(4)、359-386.
- 安藤至大. (2017). 金銭的・非金銭的報酬とワークモチベーション. 日本労働研究雑誌、684、26-36.

中国語文献

- 许昕, 赵媛, 张新林, 曾通刚, & 夏四友.. 中国县域高龄人口地域分异特征及环境成因. *Scientia Geographica Sinica*, 38.9. (2018).1449-1457
- 马姗伊. 人口老龄化视角下我国家庭养老支持体系建设研究. 当代经济研究, 307.3. (2021), 104-111.

- 田香兰. “日本老年人雇佣政策及其对中国的启示.” 日本问题研究 000.003(2012):34-39.
- 胡澎. “日本老年雇佣制度的经验与启示.” 人民论坛 000.009(2020):129-131.
- 钱鑫, and 姜向群. “中国城市老年人就业意愿影响因素分析.” 人口学刊 05(2006):26-31.
- 杨志超. “北欧老年就业政策对我国延迟退休制度的启示.” 学术界 000.007(2013):214-221.
- 姚翔等. “老年雇员退休返聘行为内在机制的研究:员工情感承诺的影响.” 人口与发展 06(2011):48-53.
- 董剑峰, and 康书隆. “老年人就业,延迟退休与青年人生育抑制.” 东北财经大学学报 No.127.01(2020):73-81.
- 祝慧琳. “配偶收入对老年人就业决策的影响研究.” 中国物价 No.379.11(2020):84-86.
- 王萍, 柏璐, and 谭骁喆. “中国老年人就业选择影响因素分析—基于 CGSS2015 数据的实证研究.” 山东农业大学学报:社会科学版 21.01(2019):95-101.
- 邹华康, and 翟振武. “养老保障对老年人就业的影响及其城乡差异研究.” 老龄科学研究 007.009(2019):3-18.
- 陆圆圆, and 童晔. “退休低龄老年人再就业影响因素研究.” 价值工程 13(2020).
- 王萍, 柏璐, and 谭骁喆. “中国老年人就业选择影响因素分析—基于 CGSS2015 数据的实证研究.” 山东农业大学学报:社会科学版 21.01(2019):95-101.
- 英語文献
- Lucas, Robert Jr.1988. “On the mechanics of economic development,” Journal of Monetary Economics, Elsevier, vol. 22(1), 3-42.